第30回　Ⅶ-4　全身麻酔

**○**１．全身麻酔で使用する薬物とその分類の組合せで正しいのはどれか。１つ選べ。

　　　 a　セボフルラン　───────　静脈麻酔薬

　　　 b　プロポフォール　──────　揮発性吸入麻酔薬

　　　 c　レミフェンタニル　─────　非ステロイド性抗炎症薬

　　　 d　フルルビプロフェン　────　麻薬性鎮痛薬

　　　 e　ロクロニウム臭化物　────　筋弛緩薬

**○**２．全身麻酔の３要素はどれか。３つ選べ。

　　　 a　鎮痛

　　　 b　鎮静

　　　 c　不動化

　　　 d　血圧低下

　　　 e　麻酔器の使用

３．全身麻酔下歯科治療の適応症はどれか。すべて選べ。

　　　**○** a　遠隔地（これは考え方で意見がわかれるところですが、歯科治療の機会がなければ良しと）

　　　**○** b　小下顎症

　　　**○** c　発達年齢が2歳

　　　**○** d　多数歯重症う蝕

　　　**○** e　静脈内鎮静法でも抑制が必要

４．障害者の全身麻酔歯科治療の適応はどれか。すべて選べ。

　　　 **○**a　不協力な心疾患患者

　　　 **○**b　発達年齢が３歳未満の患者

 **○**c　診療台へ仰臥位になれない患者（説明が不足していました、知的障害のために）

　　　 **○**d　早急に多数歯の治療が必要な患者

　　　 **○**e　ストレスによりパニックを起こしやすい患者

**○**５．全身麻酔下歯科治療の利点はどれか。すべて選べ。

　　　 a　心的外傷の防止

　　　 b　気道確保が不要

　　　 c　行動のコントロール

　　　 d　多数歯の歯科治療が実施できる

　　　 e　静脈内鎮静法より回復が速やか

**○**６．全身麻酔下歯科治療の利点はどれか。２つ選べ。

　　　 a　回復が早い。

　　　 b　ストレスを与えない。

　　　 c　術前管理が不要である。

　　　 d　術前検査が不要である。

　　　 e　身体抑制法より安全である。

**○**７．5歳の精神遅滞の男児。2歯にＣ１～２のう蝕が認められた。IQは25でであった。診査時には、泣いていた。側貌写真を別に示す。用いる行動調整法はどれか。1つ選べ。

　　　 a　身体抑制法

　　　 b　全身麻酔法

　　　 c　静脈内鎮静法

　　　 d　系統的脱感作法

　　　 e　笑気吸入鎮静法

**○**８．8歳の精神遅滞の男児。2歯にＣ１～２のう蝕が認められた。発達年齢が4歳であった。診査時には、泣いていた。用いる行動調整法はどれか。2つ選べ。

　　　 a　身体抑制法

　　　 b　全身麻酔法

　　　 c　静脈内鎮静法

　　　 d　系統的脱感作法

　　　 e　笑気吸入鎮静法